

山梨県防災会議富士山火山部会 議事録

名 称	山梨県防災会議富士山火山部会		
日 時	平成 27 年 9 月 17 日 (木) 14:00 ~ 15:10	場 所	防災新館 302 会議室
出席者	委員等：堀内委員（部会長）、荒牧専門委員、安養寺専門委員、鵜川専門委員、大久保専門委員、服部専門委員、藤井専門委員、吉田専門委員 事務局：宮澤次長、山下課長、山下防災対策専門監、細田総括課長補佐、相原課長補佐、近藤		

1 . 開 会（司会：細田総括課長補佐）

2 . 挨 拶（堀内理事・防災危機管理監）

- ・今夏の登山シーズンに間に合わせる形で「富士山噴火時避難ルートマップ」を作成し、関係団体等へ配布をしたところである。どの程度周知できたかについては、今後検証をしていきたい。
- ・地元住民の噴火時からの避難については、現在、避難実施市町村と受入市町村とのマッチングを進めているところであり、順当に進めば、今年度中には市町村避難計画が策定できるのではないかと考えている。
- ・本日の火山部会では、富士山の突発噴火時の登山者あるいは観光客の避難対策について、報告書（案）に基づき議論していただきたい。

3 . 議 事

（ 1 ）情報伝達手段の強化

委 員

- ・富士山噴火時避難ルートマップについて、これだけ詳しい具体的な避難経路を登山者に教える山はそんなにないと思う。世界に先駆けて素晴らしいものを作成しているので、更にこれを磨いていただきたいと思う。
- ・情報伝達は非常に重要であるが、情報は何処から伝達するのか。

事務局

- ・今年の夏山では、五合目総合管理センターに県の現地連絡本部を設置して、山小屋や救護所、六合目安全指導センター、安全誘導員等に対し、無線機を使ったネットワークを構築し、実証した。

委 員

- ・五合目総合管理センターが中心になって情報を発信することになると思うが、そこに情報収集する能力がないと、情報が錯綜してしまう可能性がある。そのことについては何か考えがあるのか。

事務局

・現地連絡本部の体制は、本部員として県の課長クラスが1名、連絡員として常時2名(24時間体制)の警備員が配置されている。情報は、インターネットやホームページから収集している。

委員

・気象庁から発表される情報のみを収集して・伝達するだけでは十分とは言えない。今回の箱根山では、神奈川県温泉地学研究所が中心となって情報を収集し、専門家がその情報の適否を判断して、火山防災対策協議会や県等に伝達している(その後、住民や観光事業者へ)。これが最善とは言わないが、山梨県にも富士山科学研究所に火山防災研究部があるため、気象庁から発表される情報だけを収集・伝達するのではなく、同所を活用した県独自の情報収集・伝達の強化について報告書に盛り込んだ方が良い良いと思う。

事務局

・現地連絡本部(五合目)が情報発信や避難対策の拠点となるため、そこへの情報の集約という部分で、「富士山科学研究所との連携」を検討(文言の追加)させていただきたい。

委員

・連携も当然必要なことだと思うが、県独自の情報収集機能の強化を図ることを報告書に盛り込んだ方が良いと思う。

部会長

・情報収集機能の強化について、今後検討が必要な事項として追加記載させていただきたい。

(2) 避難のあり方

委員

・今後検討が必要な事項について、「望ましい」と書かれている箇所と、「必要がある」と書かれている箇所があるが、違いはあるのか。

事務局

・県庁の中だけで議論・検討が進められる事項については、「必要がある、すべきである」、関係団体との調整が必要な事項については、「望ましい」という表現を使っている。

委員

・私も鶴川委員と同様な意見を事前に申し上げていた。「望ましい」という表現だと本当に実施するのか見えづらい部分があるので、前向きに取り組んで行く姿勢が分かるような表現にすることが良いと思う。

事務局

- ・全体の表現を整理したいと思う。

委員

- ・6ページに富士山噴火時避難パターン ・ 及び と書いてあるが、 は の間違いではないか。

事務局

- ・修正します。

委員

- ・1つの避難路に登山者や観光客が集中し、渋滞が起こってしまうのは望ましくない
ので、登山者や観光客の実態調査(いつ、どこに、どの程度の人数がいるのか)を行
うなど、きめ細やかな検討をお願いしたい。

事務局

- ・今年の開山期間中にGPS端末を活用した登山者動向調査を実施したので、その結
果も踏まえながら検討を進めていく。

(3) 普及啓発活動の強化

委員

- ・ほとんどの登山者がヘルメットを持参していないが、これからもヘルメットの持参
を呼びかけていくつもりか。

事務局

- ・富士山においては、噴石対策と落石防止という2つ観点からヘルメットの持参を呼
びかけていく必要である。

委員

- ・今、富士山五合目にはヘルメットは何個配備しているのか。

事務局

- ・山小屋や売店、五合目総合管理センター等に、2,500セット(ヘルメット・防
塵マスク・ゴーグル)を配備してある。報告書(案)にも記載されているとおり、更
なる充実を図るべく検証・検討を行っていく必要があると考えている。

委員

- ・普及啓発活動の強化にあたっては、全体の底上げも必要だと思うが、有事の際に避
難誘導のリーダーとなる得る登山ガイド等に対し、より深く学ぶ機会を設けていくこ
とも必要だと思う。

事務局

・今年度は、富士山関係者（登山ガイドや安全誘導員等）を対象にした富士山噴火時対策研修会を実施し、普及啓発活動の強化を図った。

部会長

・避難誘導のリーダーとなり得る方々への研修の充実を図っていくことについては、報告書に盛り込んでいきたい。

(4) 富士山噴火時避難ルートマップの拡充

委員

・富士山入山料の徴収率が伸び悩んでいるようだが、入山料を徴収する場所で避難ルートマップを配布するのは如何か。

今後の検討の参考にさせていただきたい。

委員

・「(1) - 観光事業者等との連携強化」の今後検討が必要な事項に「効率の良い防災教育システムを構築することが望ましい」と記載されているが、何か具体的なイメージがあるのか。

事務局

・富士山科学研究所と連携した、各種研修・普及啓発活動の実施を考えている。

委員

・「(2) - の避難手段の多様化」について、自衛隊に対し、避難の協力を要請することもあるのか。

自衛隊車両を使用した避難郵送も検討していく。

委員

・避難手段の検討にあたっては、地上からだけではなく、ヘリを活用した空中からの避難（救助）についても検討していくと理解してよろしいか。

事務局

・ハード整備には関係法令の制約があるため、今の時点ではお答えできないが、様々な可能性・選択肢を模索し、検討をしていきたい。

4. その他

5. 閉 会